

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 東京勤労者医療会 代々木病院 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

心も身体も健康になるような職場づくりをめざして

労働精神科外来が始まります

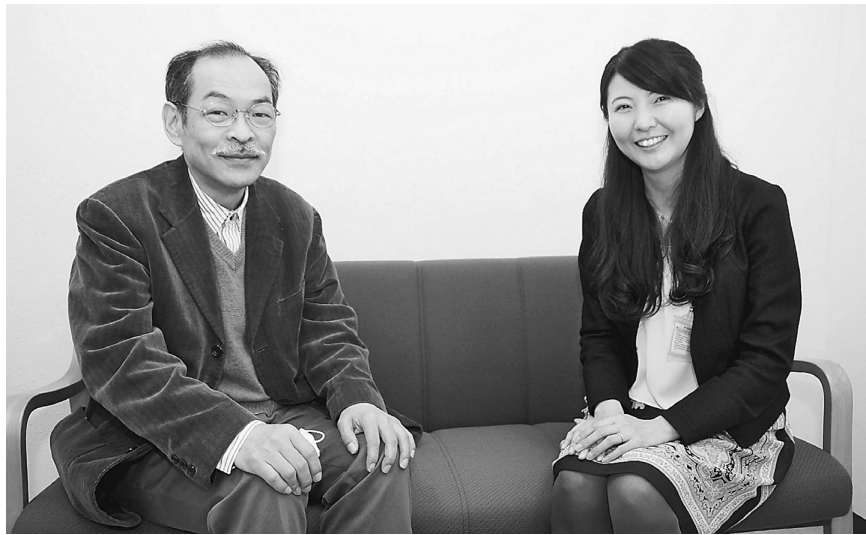
4月より代々木病院では、労働精神科外来が始まります。担当の天笠崇(あまがさたかし)医師と、「YES」(注2)担当の臨床心理士・大澤ちひろさんが対談し、患者さんを中心とした治療・職場づくりについて語り合いました。



天笠 崇 医師
状況は丁寧にお聞きしないと、かえって傷を深くしてしまいかねません。丁寧で根気強い対応

職場でのハラスメントが増加

天笠 最近、仕事を持つ初診患者さんの受診理由で多いのが、職場におけるハラスメントです。
一般の精神科外来の初診患者さんに比べ、男性、正社員が多い印象があります。中間管理職は



天笠崇医師(左)と臨床心理士の大澤ちひろさん(右)

もちろん、経営側の方も受診に来られています。非正規社員の多くが女性ですが、非正規社員の受診は少ないです。受診する前に離職してしまう方もいらっしゃいます。
疾病原因では、従来の長時間過重労働に加え、2000年代後半以降は、ハラスメントと賃金抑制が目的である行き過ぎた業績評価のような、新しいものが見につま

さつつと診断、丁寧な調整
天笠 治療では疾病原因をしつかり捉え、きつと診断名をつける必要があり。重要なのは病状評価、治療の効果評価です。評価基準に照らし、経過診断をきつとやることです。経過診断に応じて適切な薬物療法を行います。時期が来たら、病状を悪化させず、リハビリに取り組んでいただきます。
こうした標準的な一連の流れから外れないように、患者さん、職場の産

きつと診断、丁寧な調整

天笠 治療では疾病原因をしつかり捉え、きつと診断名をつける必要があり。重要なのは病状評価、治療の効果評価です。評価基準に照らし、経過診断をきつとやることです。経過診断に応じて適切な薬物療法を行います。時期が来たら、病状を悪化させず、リハビリに取り組んでいただきます。
こうした標準的な一連の流れから外れないように、患者さん、職場の産



臨床心理士 大澤ちひろさん

析)やメンタルヘルス教育活動を通して、精神疾患に陥る前の未然予防にも力

実は以前から、患者さんを中心とした職場のメンタルヘルス対策や会社の体質を変えることで、労働者にも会社にも貢献できる精神科医療をやりたいと思っています。
また、これまで過労自殺などの労働関連精神障害の労災申請や訴訟などに関わってきました。その自然な流れで、「予防が大事」と思っていた矢

業医、人事労務担当者、上司、患者さんの家族、病院スタッフ、患者さんの会社の労働組合との間を調整することが重要で、労災申請や調停や訴訟支援を行うこともあります。
天笠 その調整が大変な点です。その調整をしっかりと丁寧に行われているのだと思います。
「YES」と一緒に支援
大澤 代々木病院では「EAP事業(注1)」として「YES(注2)」を立ち上げ、ストレス調査(職場環境分析)やメンタルヘルス教育活動を通して、精神疾患に陥る前の未然予防にも力

大澤 その場合、YESとしては医療の必要性を本人に納得してもらい、精神科へつないでいきます。その後も治療過程における復職や休職などの節目で、患者さんに関わっていきます。
代々木病院には労働精神科外来とYESがあり、労働者をサポートする体制が整ってきていますね。
メンタルヘルスの改善に向けて
大澤 職場で労働者のメンタルヘルスを良くする

大澤 職場で労働者のメンタルヘルスを良くする

「労働者と会社側が一緒に快適な職場環境づくりを進める」。今の時代、それが求められているのではないのでしょうか。(た)

(注1) EAP事業…従業員援助プログラム。予防に力をいれ、組織や社員へのメンタルサポートを通じて健康職場づくりを支援するもの。
(注2) YES…代々木病院EAPケアシステム。疾病予防、健康増進

先、新しい先生が外来に加わってくれたので、スタッフと議論して「労働精神科外来」を正式に位置付けて行くことになりました。
天笠 YESでは職務内容と職場環境の分析をして、個人と職場にフィードバックします。同時に、ストレス状態の程度が重い人に受診をすすめています。
大澤 その場合、YESとしては医療の必要性を本人に納得してもらい、精神科へつないでいきます。その後も治療過程における復職や休職などの節目で、患者さんに関わっていきます。
代々木病院には労働精神科外来とYESがあり、労働者をサポートする体制が整ってきていますね。
メンタルヘルスの改善に向けて
大澤 職場で労働者のメンタルヘルスを良くする

ポイントを教えてください。
天笠 患者さんには、第一、第三の患者さんを生みださないような職場づくりをするための「推進員になってね」、経営側には「人に関する経営管理をしっかりとやってください」と言います。
理想を言うのと、働きに来るだけで心も身体も健康になってしまおうような職場(健康職場)を作るよう、関係者に投げかけます。
そして中間管理職の人には、まず自分が倒れないようにして、帰ってくる部下が上手くやれるような職場づくりと、そのためにはこちらも産業医と連携して協力することを伝えます。これらの実践により、患者さんを出したいいくつかの職場で目覚ましい成果が出ています。

千駄の萱

漁船の横で次々と立ち上がる無数の水柱、機銃掃射される列車。テレビで、太平洋戦争中の米軍機の銃撃による空襲の特集をやっていた。翼等に取り付けられた「ガンカメラ」の鮮やかなカラー映像から、人の姿がほとんど見られない。実際16時間の映像の内、人の姿が分かるのはたった15秒。パイロットは証言する。「地上にいる人たちには何の感情もわかなかつた」。人が見えないことが、民間人への攻撃に対する心の障壁を取り除いたのだろう。攻撃された人たちの苦しみは伝わらない。その最たる物が核兵器だ。攻撃者がスイッチをオンにすれば核ミサイルは発射され、数千キロ先の目標で、攻撃者と同じ血の通う人間が暮らす頭上で爆発し、人々へ瞬時に「死」をもたらす。この凶器から逃れる術は核兵器の全廃しかない。被害者の話を聞き、惨状を表現した絵を見ることで核兵器の恐ろしさを共感できる。▼広島と長崎への原爆投下から70年、被害者の平均年齢は79歳。時間が無い。まずは4月の核不拡散条約再検討会議で「核兵器の無い世界」への道筋を確実につけることだ。(た)